

新春対談



明けましておめでとうございます。今年も設立15周年を記念して、設立当初から当法人を牽引してこられた方々にお集まり頂き、これまでの15年の歩みと今後のむべの里について語って頂きたいと思っております。

平成8年 地域に受け入れられる

社会福祉法人を目指して!!

設立当時、開設に先立ち、特養ホーム宿泊体験にとりくみました。開園にご協力いただいた地域の皆さんへ募集のパンフレットを配布したところ、2、3日で、女性が圧倒的だったと思いますが、70人の募集が満員となりました。施設の稼働をリハールする意味もありましたから、厨房での食事作り、配膳車の使用、各室のベッドには寝具も全部揃えました。参加者をデイサービス利用者さんに見立てて、デイサービスのリハールのようなことも行ないました。大盛況で、老人ホーム利用者としては元気づける地域のみならずの明るい笑顔と、元気な様子が心強かったのを今でも覚えています。また、当時は老人福祉施設(特養)と言っものに地域住民の方々は馴染みが無く、約2,000人にアンケート調査し、ご回答頂いた結果、99%以上の方が、病院や老人保健施設で亡くなりたくないという結果でした。

確かに、当時特養は古い、姥捨て山(イメージ)が強く、敬遠する傾向が強かったですね。その為、私達は毎日地域に出て自宅訪問をし、ニーズやお困り事などを拾い上げるための情報収集に励みました。また地域の方々に老人福祉施設の理解を深めて頂き、少しずつでも地域に受け入れて頂ける努力をしてきました。

むべの里 老人ホームはぎわら 施設長 由川和代



地域の期待に応える為に! 多様な事業展開に取り組んだ15年間

では伏原さんは15年を振り返ってどうですか?

振り返れば事業展開が速く、色々なことをゆくり考える暇もなかった気がしますが、地域に向いていくと、色々なニーズが隠れていて、当時は福祉のお世話になることを恥ずかしいと思えよう方もおられ、門前払いをされたこともありましたが、人間何でもやろうと思えばやれるものだと思う事も多かったですし、職員の大きな成長に繋がったという事は確信できますね。

そうですね。私達はこれまでに、色々な経験を積み重ねてきました。ヘルパー事業の開設計画は、雪の日でもチェーンを巻いて小野まで援助に行ったり、水の出ないお宅にお湯や水を入れた灯油缶を持ち込んで、身体を拭いてさしあげたり掃除をしたり。24時間ヘルパーでは真夜中にご利用者のお宅に訪問し、鍵を開け安全確認やおむつ交換等をして帰る。本当に色々なケースに柔軟に対応しようと努力してまいりました。

24時間ヘルパーを稼働していた当時、深夜にむべの里のロゴマークを付けた自動車が走っている姿を見掛けると、誇らしく、嬉しかったことを思い出します。「地域貢献」福祉の街へ「困っている人に支援を」といった法人理念の下、職員が奮起し、色々なことを先駆的に取り組んできました。24時間ヘルパーをはじめ、配食事業、グループホーム等、これらの事業は市内でどこよりも早く事業を開始しました。まさに、むべの里の歴史は福祉に対するあらゆる挑戦と開拓の歴史だと感じています。

地域との繋がりを大切に

高齢者の自宅訪問は年間1,200件に

それでは少し話題を変えて、むべの里の名称になっている高齢者世帯への一斉訪問を開始してから今に至った経緯をお話頂けますか?

平成11年には、サービス利用者はデイサービスを中心に500人に達していたと思います。平成12年の介護保険の導入に向けて「必要な人全てにサービス利用の保障を」の掛け声で、むべの里全職員による総訪問を行ないました。介護保険の申請代行4500人程、介護度判定が行なわれた人は、2500人程でした。介護保険のサービス利用が叶わなかった人たちは生活支援事業としてのデイサービスや配食サービスなどの申請を進め、一方で介護保険のサービス利用の契約も同時進行で行うなど、生涯何日目かの多忙な日々となった事を覚えています。介護保険制度によるサービス利用が軌道に乗っ

むべの里 高齢者専用 貸付住宅東本町 施設長 伏原香



むべの里地域支援事業

「心も元気 からだも元気」

社会福祉法人むべの里では、「誰もが安心して暮らせる街づくりを目指して」という理念の下、平成18年より「こころも元気、からだも元気」と題し、地域の皆様と一緒に外出や体操、講演等を企画して行ってきました。この活動を通じ地域の皆様には、むべの里を身近に感じていただき、そして親しんで頂く事ができれば、さらに充実したものにすると期待しております。参加対象者は、介護保険を利用できない、おむね65歳以上の方を中心に活動しております。



夕食時の宴会にて



宇佐神宮にて

天候にも恵まれ、最高の温泉旅行となりました。

昨年12月に1泊2日で別府温泉旅行に行きました。114名のご参加を頂き、ありがとうございました。

今年は、例年より多くの皆様にご参加いただき、とても充実したものとになりました。これもひとえに地域の皆様のご支援、ご協力のお陰と心より感謝いたします。

今年もむべの里地域支援事業「心も元気からだも元気」の活動をよろしくお願

い致します。

田中 田中 由川

初心を大事に、さらなる成長を遂げる

最後になりますが、皆さんが今後の取り組むべき課題をどう考えておられるか、お話し頂きたいと思っております。



むべの里 副園長 田中 円子

介護業界全般に言えるのですが一人が定着する職場づくりが大きな課題です。当法人は女性職員が75%を占めており、育児と仕事の両立が出来るような支援や環境整備が必要だと思っております。仕事をしながら安心して子育てができるということは職員の定着という点で安定性が出てくると思っております。女性が多い中で、そのような視点も必要だと感じております。

本日に色々な思いを持って訪問活動を実施し、今日のむべの里があることがあらためて良くわかりますね。

島村 伏原

私は施設の入所相談を受けたりして特に感じるので、今後家族や親族の方がますます疎遠になったり、子どもや身寄りの無い方がますます増えていくと思われまます。そのような方々に対してどのように対応し、社会福祉法人としてどのような配慮が必要なのか。また他業種、例えば弁護士、司法書士等との連携を充実させていくことが大きな課題となると考えています。

むべの里が手探りの中、パイロット事業としてグループホームをつくった10年前に比べると、現在認知症の研究や研修、事例報告等が様々な場面で積極的にされています。その中で、今以上に認知症の方々にに対する対応を充実させていきたいと思っております。介護の質の良し悪しで認知症の進行度合いが大きく変化すると言われております。現場にいてそのように感じることも沢山ありました。医療では出来ない、介護なら出来る、介護でしか出来ないことをやって行けると良いと思っております。

特別養護ホームむべの里 特老施設 施設長 島村幸子



田中

皆さんが色々な実践や経験を積み重ね、様々な考えや思いを持ってこれまで前進して来られた事が、むべの里の大きな財産となり、今日に繋がっていることが良くわかります。私達が掲げる理念は答えを導き出すことのできない、永遠のテーマです。常に時代の波と新たな時代を見据え、次なる政策を進める挑戦者であり先駆者であり続けたいと努力してきた事が大事であると考えています。また、そこには常に地域の方々の理解と支援がありました。それを忘れてはいけないと思っております。今回の対談で初心に帰り、改めて地域の皆様への感謝の気持ちや、当時の情熱、苦勞を思い出さず、今後の新たな政策に挑む原動力となると確信しております。この気持ちを忘れず今年も皆さんと共に、さらなる成長と地域の皆様の期待に応えていきたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。

お問合せは下記までご連絡ください。

- むべの里在宅介護支援センター(厚南) TEL 43-1944
- むべの里在宅介護支援センター(はぎわら) TEL 54-0661
- むべの里居宅介護支援センター博愛園 TEL 39-2315
- むべの里在宅介護支援センター(住吉) TEL 81-1015
- むべの里在宅介護支援センター(東本町) TEL 37-1515